

図書館報

聖隷クリストファー大学

第8号 2010.3

🌸 BURNS Library (渡邊順子) 1-2	🌸 サブカルチャーと正義の味方 (吉川卓司) 4
🌸 「最近、読書に関連して感じること」 (稲垣健治) ... 3	🌸 「この一冊」 5-6
🌸 「子育てと本」 (小川恭子) 3-4	🌸 図書館新システムの紹介 7-8



BURNS Library

看護学部学部長・教授 渡邊 順子

私が米国東部にあるボストンカレッジ (BC) に滞在した時の貴重な図書館体験についてお話しします。

BC は、1863 年にイエズス会によって創立された男女共学の総合大学です。カレッジというと単科大学をイメージしますが、伝統的な総合大学です。ボストン市内にすでにボストン大学 (University) があったため、改名しなかったといわれています。専攻は法学、化学、教育、芸術、心理学、看護学など多岐に渡り、スポー

ツではアメリカンフットボール (イーグルス) が有名です。看護学では、「適応看護モデル」で著名なシスター・カリスタ・ロイが大学院の教授として今も在籍しています。BC は、1913 年にボストン市の西 Newton 市 Chestnut Hill に移転し、約 75 ヘクタールある広大なキャンパスの中に 92 の建物が点在しています。

私が最初に指導教授 Dr.Dorothy A. Jones と BC で会ったとき、BC で最も大きな規模を誇る O'Neil (オニール) 図書館 (地上 4 階地下 2 階) を案内され、看護学専門の司書を紹介されました。驚いたことにその司書の方はオフィスを持っており、翌日、看護学に関する文献情報について、さらに詳しく案内していただきました。

Dorothy からは、「BC にはまだ他にいくつか図書館があり、中でも、BURNS (バーンズ) Library は、NANDA(North American Nursing Diagnosis Association: 北米看護診断協会) の設立準備から 30 年間の歴史的資料がすべて保存されている。」と聞き、後日、ひとりで行ってみることにしました。

Dorothy は前 NANDA 理事長でもあったためか、その図書館のことを誇らしげに話してくれたのです。

BURNS 図書館は、開放的な O' Neil 図書館とは全く違い、古城のような重い扉に閉ざされた建物でした (写真 1)。その重い扉を力一杯引いて中にはいると、

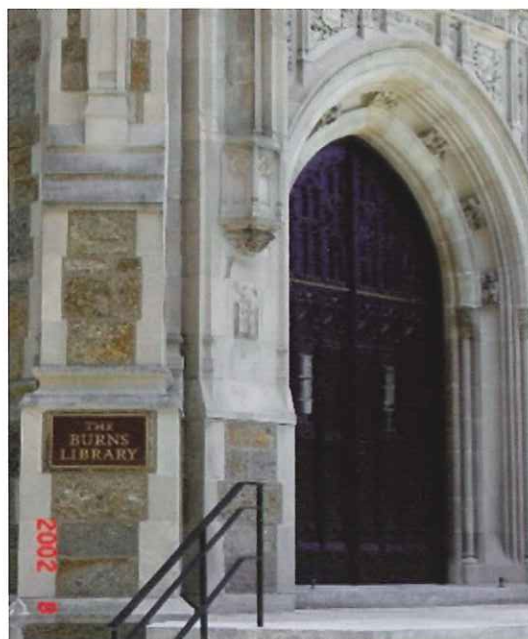


写真 1

石畳のアプローチを数段上がったところにまた重い扉があり、それを開けて中に入ると、薄暗い部屋の中に女性警備員がひとり机のスタンド照明を頼りに座っていました。軽く挨拶をして、そのまま閲覧室へ行こうとしたら、「Excuse me !」と大きく響き渡る声で呼び止められてしまいました。

彼女は、「ここはどういう図書館か知っているか？あなたが探しているものがここにあることは確かか？IDは持っているか？」と、畳み込むように質問してきました。それで、Dr.Dorothy A. Jones から NANDA の貴重な歴史的資料がここにしかないと聞いてきたこと、まだ日本から着いたばかりで ID は持っていない、と説明したら、廊下の突き当たりの部屋に人がいるから、そこで登録しなさい、ただし、荷物は全てすぐ横の小部屋に置き、ペンは置いていくようにと厳しい顔で言われてしまいました。しかたなく、どうみても掃除道具置き場にしか見えない部屋の片隅に、パスポートや帰りの飛行機のチケットまでの全財産を入れたバッグとパソコンを置いて、隣の部屋へと進みました。

その部屋は、あたかも誰かの書斎のような広さで、床から天井まで三方の壁一面に本があり、閲覧用と思われる大きな机が6つ並んでいました。入り口には、頑丈な木製のカウンターの上に、建物には似つかわしくないコンピュータのモニターが3台ありました。部屋にはいるとすぐに司書らしき男性から呼びかけられ、登録するためにはパスポートとビザが必要と言われ、再び例の掃除道具置き場へ戻りました。

そして、NANDA の文献が見たいことを彼に告げると、コンピュータで検索し「地下の書庫に書類と本が入っている箱が11箱ある。全部見たいか？」と言われ、「箱？」と不思議に思いながら「書類の箱が見たい。」とお願いしました。



写真 2

しばらくすると、彼は厚い絨毯敷きの床を恨めしそうに、6つの箱を乗せたカートを引きずるように持ってきてくれました。ひとつの箱の重さは軽く 20kg は越すでしょう。

「きっとこの箱の黒いファイルが一番古い書類だと思う。」と彼は最上段の箱のふたを開けて教えてくれました (写真 2)。

しかし、箱の中味は、想像を絶するものばかりでした。今までの図書館のイメージが一瞬のうちに塗り替えられた気がしました。私が思い描いていたのは、NANDA 設立に関する議事記録がファイルしてあるのだろう。つまり、公開することを前提とした書類が保管してあるものと勝手に思い込んでいたからです。

目の前に積み上げられた箱の中味は、1970 年代初頭に St.Louis で NANDA 設立に奔走した Kristine Gebbie と Mary Ann Lavin がアメリカ全州の同志へ宛てた手紙や、頻回に会議をしたことを物語るおびただしい領収書の束と、袋に詰められたスナップ写真など、まるで、誰かの宝箱を間違って開けてしまったような気持ちでした。

それから数日間は、とにかくひたすら丁寧に書類を調べていきました。しかし、メモが許されないのはつらいので、なんとか交渉してパソコンとデジタルカメラの使用を許可してもらいました。何日間か通ううちに、警備員とも顔なじみとなり、鍵付きのロッカーを貸してくれるようになり、司書もパソコンの電源が取れるよう窓際に私専用の机を運んでくれたりしました (写真 3)。まだまだ NANDA BOX を制覇するには相当の時間がかかり、NANDA の歴史を辿るのは険しいものでした。

BC で学んだことは、図書館は大学の財産である、と実感させてくれたことです。



写真 3

最近、読書に関連して感じること

看護学部 非常勤講師(前看護学部教授) 稲垣 健治

社会は年々加速度を増しながら情報量を増やし、人々を情報の洪水の中に飲み込もうとしている。そんな時、蛇行する川の流れのような、ゆっくりと時の流れる世界に自身を置きたくなる。最近「藤沢周平」の本を何冊か通読している。若い時には目を向けなかった小説であるが、体感できる「ゆっくりした時の流れ」や「描写される人情」のようなものが、今の私の「体内実感時計」や「深奥感情」に synchronize するからである。

「新田次郎」の本は若い時に何冊かを読んだ覚えがあり、好きな作家の一人である。本屋で「劔岳（点の記）」をみつけ、読んでみた。数ヶ月後、これが映画化されたと聞き、映画館へ足を運んだ。感想は「読書で感じたほどの詳細な描写を空想力たくましく感じることはできなかった」。映画監督は立山曼陀羅などの背景を文字から空想力たくましく構築する作業を行っているが、観客は、その作業がスキップされた「結果としての映像」を瞬時に提供されるので、空想力を働かせる「時間と間」がなくなっていることが一因かもしれない。そして、あらためて著者の描写の緻密さと空想力をかきたてる文章力に感じいった。

最近気になる News に「電子読書端末」がある。米

国では書籍全体の約1%が電子書籍に移行し、その比率が急増している。私は日本のパソコンの初代機種である NEC の PC8001 を無理して購入した世代である。仕事では、英文ワープロのソフトを作り、投稿論文を清書するのに使った。その後、日本語ワープロソフトが市販されるようになったが、やはり、推敲を重ねた原稿を清書するのに使っていた。ものを考え構築する作業は「紙の上で鉛筆を舐めながらでない」と当時信じていた。それが、いつしか display 画面で作業するようになった。「電子読書端末」にも紙をめくりながら読む読書感覚が維持できるかと懸念する声があるが、人は電子読書端末に適応すると感じている。学術論文はすでに電子版の時代に入っているのだから。寒くて薄暗い図書館の書庫の中をさまよったのは遠い昔の世界である。一部の歴史的に重要なものを除いて書庫は必要ない時代になるだろう。本学独自の紀要や修士・博士論文は外の世界の読者に向けて発信するのである。電子化して、多くの読者に読んでもらう情報発信の基地としての図書館を期待したい。異議をとかなえる人がいるのは常であるが、学術論文は読んでもらってなんぼのものだという原点を大切にしたい。



子育てと本

社会福祉学部 こども教育福祉学科主任・准教授 小川 恭子

娘が幼少の頃、就寝前に絵本や童話を一緒に読むのが日課であった。お気に入りの絵本を何日も読まされ「いつまで続くのか」と秘かに思ったり、忙しさのあまり手抜きをして読むと「今のところ違うよ」と指摘されたり…。様ざまな思い出があるが、今振り返るとその時間はかけがえのないひと時であった。その後弟が誕生し、いつしか娘との就寝前の本読みも途絶えたころ、「弟にも絵本をたくさん読んであげないと本を読まなくなるよ。私が本好きなのは小さいときから絵

本を読んでもらったからだと思う」との娘の一言。ドキッとした私は、「ほんが すき！（D. マクフェイルぶん・え）」という絵本を思い出した。テレビが大好きな主人公のエンマ（くまの女の子）が、早起きをしてテレビを見ようとしたがなぜか映らず、困ったお母さんがエンマに本を読み聞かせたところ…。「もう1度よんで」「ねえもう1度」「こんどは私がミリーちゃん（お人形）によんであげましょうね」と、子どもが本に夢中になる様子を描いたお話である。

エンマのように、子どもが読書に親しむにはまず「本にふれる」ことが大切であり、次に「魅力ある本」が提供されることが重要である。子どもにとって絵本や童話はそれ自体が楽しみであり、想像力を働かせながら思い描く未知の世界を与えてくれ、豊かな情操を育む「宝箱」である。しかし、そういった体験は与える大人の価値観や準備される環境に大きく左右される。どのような本が提供されるのか、どの程度の時間が読書に費やされるのか、どのような声を通して本の内容が伝えられるのか。それにより子どもの内的世界の構築が大きく影響を受けるとするならば、与える大人の役割は大きい。また、子どもは「魅力ある本」として

評価する力があることを大人は知らなければならない。子どもは育まれた感性を通して本を選別し、魅力を感じた本を「お気に入り」として意思表示するのであろうし、そうした本との出会いがさらに感性を育んでいく。こういった子どもの持つ力を私たちはしっかりと受け止め、本の提供を心掛けなければならないと思う。

子育てにとって、「本」は大切な宝物である。そして、「本」という共通の世界を通じての感情交流、温もりに満ちた時間や安らぎのある楽しい空間の共有…、こういった大切な「時」が私の子育てにとってかけがえのない宝物であったと思う。



サブカルチャーと正義の味方

リハビリテーション学部理学療法学専攻長・教授 吉川 卓司

最近、書店に立ち寄ると目指すのはサブカルチャーのコーナーである。大きな書店でないとこのコーナーはない。仕事やおモテの顔とまったく関係のないものを読んだり考えたりするのが私は好きである。おモテの仕事にまったく反映できないのは悔しいが（例えば「最近のサイバラ^注」は守りに入ってるよね。」なんて言っても学生たちは混乱するばかりであろう）、気分転換には最高である。

さて、私の手もとに仙台のサブカルチャー・コーナーの充実した書店（どんな書店だ）で購入した痛快な本が何冊もあり、その中の一つに「筧棒な人々」（べらぼうなひとびと；太田出版、1998年）というのがある。この本の副題には「戦後サブカルチャー偉人伝」とある。この本には4人の傑物が描かれている。康 芳夫、石原豪人、川内康範、糸井寛二という面々である。4人ともすこぶる面白いのであるが、今回、川内康範のことについて少し触れてみる。「おふくろさん」の歌唱についての森進一との確執で近年（2007年）マスコミを賑わしたのでご記憶の方もいらっしゃるかもしれない。その事件で川内氏がとても威圧的な態度をとっていたのが腑に落ちない方々もいらっしゃると思う。しかし「筧棒な人々」で氏の仕事の実績を知っていた私は、この人ならそのくらいのことを言うだろうなと思った。膨大な業績を残しているが、一般的に知られているのは映画・テレビの脚本と作詞であろう。

膨大である。大ヒット累々である。

「月光仮面」と「おふくろさん」だけでもすごいと思う。月光仮面の影響で、私の子供の頃、男の子はみんな（私も）風呂敷の一辺を首に巻いて他の部分を後方にたなびかせながら走りまわって遊んでいたものである。紅白歌合戦で森進一が大トリになったときがあり、そのときに歌ったのが「おふくろさん」。それがまた涙を流しながら歌う大絶唱で、その歌の感動に会場が包まれたまま投票に至ったものだから白組の勝利になってしまったという記憶がある。

さて月光仮面である。彼は“正義の味方”「月光仮面」と名乗る。今も「かぶりもの」のヒーローたちが正義の味方と名乗るのは明らかにこの影響である。正義そのものではなく、正義にそっと寄り添い「お味方いたす」というのである。この表現こそ川内氏の発明なのである。正義、正義とうるさくわめくと怪しい感じがするのに、正義の味方と言ったとたん、いかがわしい感じが消えてそっとわれわれの気持ちになじむ。そこがすばらしい。何かを（誰かを）援助するときに実はこういう工夫が要るのではないかと思う次第である。

川内康範氏は一昨年（2008年4月）亡くなられた。謹んでご冥福を祈る。

注）西原 理恵子（サイバラ リエコ）：燦然と輝く文化芸術的受賞が不思議な無頼派漫画家

この一冊



本学教員からのお勧めの一冊

(五十音順)



吉田友子著『高機能自閉症・アスペルガー症候群「その子らしさ」を生かす子育て』
中央法規出版

言語聴覚士として勤務していた時、子どもが自閉症と診断された保護者に紹介していた本です。専門職であり母親である児童精神科の女医が障害の特徴をわかりやすく、そして、子育てに役立つアドバイスを具体的に書いています。

(リハビリテーション学部言語聴覚学専攻 助教 池田泰子)



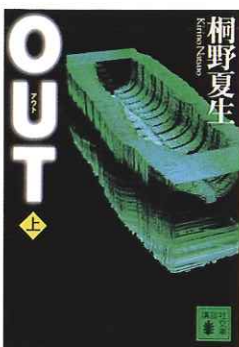
佐藤忠雄監修『山中貞雄作品集』

実業之日本社

弱冠 22 歳（昭和 7 年）で映画監督になった山中貞雄は 22 本の作品を残し、召集され昭和 13 年 9 月中国戦線開封で戦病死した。別に彼の脚本で 20 数本の映画が製作された。

彼の撮った映画は全国津々浦々で驚くべき人気を博し最後にはフィルムのコマが擦り切れるまで上映された。彼のフィルムで現存するのは僅か 3 本である。幸いにも映画脚本は温存され、印刷されたその脚本の 1 行 1 行に彼の若い生命の流れの躍動を見ることが出来、幻となった映画の感動を再び我々に蘇らせてくれると共に戦争の悲惨さを無言で訴えている。

(看護学部 准教授 上島卿一郎)



桐野夏生著 『アウト』

講談社文庫

1997 年作の小説。少しばかり賃金がよいことから深夜の弁当作りパートに就いて、ただ働くばかりであった女たち四人が、殺人にかかわり、さらに OUT な領域に入り込んでいく様が描かれている。そのリアルさにただ驚かされる。現実そのものとして現代の底辺社会が捉えられている。作者が女性であるのも驚きである。

(大学院社会福祉学研究科 教授 川上昌子)





下村湖人訳 現代訳『論語』

PHP 研究所

いま「論語」が親子に注目され人気だそうです。「論語」の言葉は、私たちが今まで忘れていたものを、思い出させてくれる有益な一書です。

(リハビリテーション学部 教授 顧寿智)

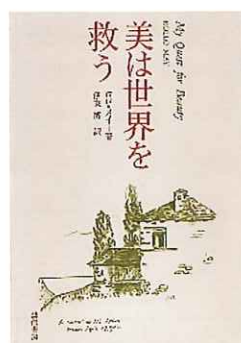


フロレンス・ナイチンゲール著 湯横ます他訳『看護覚え書』

現代社

読む人に合わせてどのようにも深く、高く、広く看護を考えさせてくれる。著者はただいのちのために、ただ人のために看護を描いたと、私は思う。「病気は回復過程 えーっ」1行めからガツンです。歯がたちません。でも、傍らにおいてほしい。“本当の看護”と“そうでない看護” どちらを選ぶのか。それを考えるヒントを、著者は透徹した観察と論理で伝えてくれる。その世界は、あなたのなかにもある看護の魂の居場所です。

(看護学部 教授 小島通代)



ロロ・メイ著『美は世界を救う』

誠信書房

フランス実存主義文学から文学散歩が始まりましたが、今は音楽療法の考察を深めるため心理療法関係の本を多く読みます。ロロ・メイの「美は世界を救う」は名著だと思います。美のみが、今日の地球の危機、人類の危機、人間の危機を救うことができるのだということを生き生きとした体験を通して叫んでくれています。

(社会福祉学部 准教授 店村真知子)



坂口安吾著『墮落論』

角川文庫

坂口安吾は、人間は墮落するが、その中でこそ自分を発見して救われるのだと言います。これは、深くかがみこむことによるのみ高い飛躍ができる、墮落を知ることではじめて通常の世界の価値を知ることができる、等の深い意味を持っています。不安な世界を乗り切るための発想の転換を与えてくれるかもしれません。

(社会福祉学部 教授 渡辺泰宏)



新図書館システム マイライブラリ

マイライブラリ

I. 新着情報をパソコンや携帯電話にお届けします！

必要とする情報のキーワードを登録すると、登録したキーワードに関連する新着情報をマイライブラリやパソコン、携帯電話に送信できます。メールアドレスは、GMailを設定してあります。加えてもうひとつアドレスを登録できます。携帯電話で新着情報を受信するには、Gmail 転送設定をしてください。

II. 現在借りている図書の確認と貸出延長ができます！

[借用中の資料](#) の [詳細を見る](#)

Ⅲ. 貸出中の図書の予約ができます！

検索した図書が貸出中の場合、予約の手続きをすることができます。

図書を予約するときには、まず蔵書検索を行います。検索した結果、借りたい図書が貸出中の場合、**予約** ボタンをクリックして予約します。

予約した図書が図書館に届きましたらメールでご連絡します。マイライブラリでも確認できます。



IV. 検索した情報や新着情報をマイフォルダに保存できます！

マイフォルダを作成し、その中に検索した情報や新着情報を保存できます。テーマごとにフォルダを分けて保存することができますので、学習や研究のツールとして活用してください。

V. 図書のリクエストができます！

図書館に受け入れてほしい図書のリクエストができます。リクエストする際には、希望する図書の情報（書名、著者名、出版社、ISBN）をできる限り入力してください。

聖隷クリストファー大学図書館

情報検索(データベース) 図

ようこそ、



お知らせ

お知らせはありません。

図書館から個人宛のお知らせを表示

新着情報

新着情報はメールでもお知らせしています。

■ 新着資料:9件 [詳細を見る](#)

1. 特集:ポートフォリオが花ひらくとき 看護教育 51巻2号 通号609, 2010年2月25日
医学書院
○ 新着雑誌
2. 第13回日本糖尿病教育・看護学会学術集会報告 日本糖尿病教育・看護学会誌 13巻1号, 2009年3月15日
日本糖尿病教育・看護学会 [編集]/Japan Academy of Diabetes Education and Nursing 日本糖尿病教育・看護学会/医学書院 (発売)
○ 新着雑誌
3. 黒い部屋の夫, 上
市原恵理著. インフォレスト, 2009.
○ 開架, 請求記号: 916/IC/1
4. 黒い部屋の夫, 下
市原恵理著. インフォレスト, 2009.
○ 開架, 請求記号: 916/IC/2
5. 日本糖尿病教育・看護学会誌 13巻2号, 2009年9月15日
日本糖尿病教育・看護学会 [編集]/Japan Academy of Diabetes Education and Nursing 日本糖尿病教育・看護学会/医学書院 (発売)
○ 新着雑誌

I. 登録したキーワードに関連する新着情報を表示

■ 新着資料の条件

I. クリックしてキーワードを入力します

入手待ちの資料

入手待ちの資料はありません。

借用中の資料

■ 3件の資料を借りています。 [詳細を見る](#)

II. クリックすると貸出中の図書の確認・確認延長ができます

マイフォルダ

■ テスト(1件) ■ 卒論(2件)

■ マイフォルダ管理

IV. クリックして **新規作成** からフォルダを作っておくと検索結果を保存できます

操作メニュー

■ 依頼

■ 図書のリクエスト

V. 図書館に受け入れてほしい図書のリクエストができます

■ 設定変更

■ パスワード

パスワードの変更ができます

■ メールアドレス

I. メールアドレスが設定できます

図書館報 第8号 / 発行・聖隷クリストファー大学図書館 / 2010年3月1日

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町 3453/TEL: 053-439-1416/FAX: 053-414-1146

E-mail: cl-library@admin.seirei.ac.jp 図書館ホームページ URL: http://collib.seirei.ac.jp/